

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームあぜ道独自の理念を作り、それを基にサービスが提供できるよう心がけている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に2回行っているミーティングで復唱を行っている。また、玄関・フロアーなど目につく箇所に掲示して、日々の生活の中でも理念を基にサービス提供を心がけている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	利用開始時、外部評価配布時に理念を伝えていくとともに、面会時にも随時伝えている。また、法人のパンフレットに理念の掲載をしており、多くの人に見てもらおう機会をつくっている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	天気の良い日は、散歩や近隣をドライブする際に積極的に、あいさつを交わすようにしている。隣の施設から遊びに立ち寄られたり、花壇前で休憩されたり、自由に行き来できる関係ができており、お互い会話を楽しんでいる。		地区内の回覧板を使って、行事がある時には気軽に立ち寄ってもらえるようにしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町の河川浄化活動に参加している。近隣での祭り、小学校の運動会や催し物がある際は、積極的に参加して交流を楽しんでいる。また、週2回来て頂いている魚屋との付き合いで会話を楽しんでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域高齢者の役割作りや交流を目的に広報紙で野菜作りの指導をお誘いしたが、足を運んでもらえなかった。みやま市主催のいきいき健康福祉まつりでバサーを提供して当ホームを認知してもらい足を運んでもらえるよう努力している。		茶話会や認知症についての介護教室等を開いて地域に少しでも貢献できればと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の記載は、職員全員で確認し自己評価としている。評価に参画することで、事業にとって大切なものが理解でき、改善につなげることが出来ている。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施をしている。会議では活動内容報告を行い、質疑応答の機会を設け、出た課題や意見は今後に反映するように努めている。また、行事への参加にも声かけ、日常におけるご利用者と職員の関わりについても確認してもらっている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも運営面や質問等、足を運び関係を築いている。また、いろんな情報を頂き質の向上に取り組んでいる。敬老祭に出席していただいたりしている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度は、パンフレットを置き情報を提供している。年に1回は成年後見制度の勉強会を行っている。法人全体としても研修委員会主催の権利擁護勉強会を行う。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者の尊厳を考えると虐待はあってはならないものであり、この事について職員理解を深めるよう、ミーティングや委員会等で高齢者虐待防止法の内容を勉強し防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書・契約書で利用開始時に説明を行い、また利用中に不安や質問がある場合はいつでも対応することを付け加えている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年1回のアンケートや苦情ボックスを設置している。意見や苦情が出た際は、随時検討し合う機会を設け、その回答を掲示して反映させている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には職員の異動や状況報告、体調変化や緊急の際は電話連絡を行い報告するようにしている。個人の出納帳は、面会時に報告し確認印をいただくようにしている。また、ご利用者の日頃の暮らしぶりについては、パネルに写真を貼り見ていただいている。</p>		共有スペースに本棚を設け、アルバムを置くことでみんなで楽しかった思い出の共有を図っていきたい。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関口に投書箱・アンケートを用意し家族の意見・不満・苦情等の意見を出せるように取り組んでいる。また、相談や苦情システムに取り組んでおり、第三者委員会も設置している。苦情はミーティングや緊急会議で検討し改善に努めている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>申し送りノートや月2回の会議時に意見交換できる場を設けている。必要であれば緊急ミーティングを開き検討会を行う。個々では年2回の個人面談において、あらかじめ要望を受け面談時に対応している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ご利用者に合わせた勤務体制については、常日頃から職員に話を行っている。変更の際は、みんなで検討のうえ調整している。あくまでご利用者中心で考えている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>人事異動はあるが、頻繁にあるわけではないので、決して馴染みの関係が途絶えるのではなく、竹里会で行う行事ごとや訪問により関係は維持されるようダメージの軽減に努めている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては、本人のやる気等を重視し性別や年齢等を理由に排除していない。人事考課を実施し職員の育成に努めている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>竹里会の基本理念にもうたっているように、個人の尊厳を念頭に置き、ミーティング等で理念の唱和を行い指導している。また、研修報告会を全体会議で行っている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人で新任、基礎、専門、指導者等の外部研修に参加している。参加後は研修報告の場でフィードバックと波及効果に努めている。また、人事考課を導入し職員と話し合いのもと課題目標を設定し、段階に応じての育成に取り組んでいる。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加入しており地域の同業者と勉強会や交流を通して質の向上を目指している。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>互助会の親睦会や他施設職員との交流、面談での発言の場を作っている。研修委員会でもメンタルケアに重視をおいたセミナーを定期的開催している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>人事考課制度を取り入れており、職員個々の目標等面談時にお互い検討し設定している。評価では目標の達成度を確認し、納得しながらのステップアップを図っている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご利用者の事前面接は必ず行い、本人が利用に対して感じていることなどを伺い、安心できる対応を検討している。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居相談や施設見学の際必要な情報は提供し、本人や家族の情報を頂く時、十分に話を聴いている。</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人・家族のニーズを確認し、他のサービスが適切であると感じた場合は、パンフレット等を使用しながら他のサービスの紹介や説明を行っている。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に当施設の様子を見学してもらい、雰囲気を感じ取ってもらったりしている。また、事前訪問しご利用者との関係作りに努めている。即入居ではなく、例えば1週間や1ヶ月利用してもらい本人・家族の納得の上入居してもらっている。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活の中でも家事活動(買い物・食事・洗濯・掃除等)を共に行い共に暮らすことを主眼に置いている。野菜や花を育てているが分からないこと、育て方等をご利用者にアドバイスしてもらったり、意図的に聞き出している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えている関係を築いている	家族と情報交換を密に行い、本人を協働で支えていけるよう日頃から自然な関係を目指している。例えば家族との外出や月2～3回の外泊及びあぜ道での宿泊等の協力も得ている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・家族の要望を踏まえお互いの関係が程よいものとなり、安心して過ごせるよう努めている。家族との外出や外泊、あぜ道での宿泊または、年2～3回の行事での外出の参加、敬老祭、忘年会等でご利用者と家族がゆっくり過ごせるような機会作りを行っている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室での散髪・パーマやかかりつけの病院への受診等、なるべく継続してもらうよう家族に働きかけたり共に出掛けたりしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士が一緒に行える場面を設定し、声かけあったり、いたわり合ったり出来るよう心がけている。共に歌ったり、外出したり、野菜を育てたりする機会を多くして、ご利用者間の関係作りに配慮している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても病院へ面会に行ったり、他事業所での様子を見に行ったりしている。終了後も、いつでも相談などを受けの旨をご利用者や家族に伝えている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとりの思いや希望を聞き、職員間での話し合いや家族の協力を得ながら要望に応えられるよう取り組んでいる。日々の行動・表情、状態観察を行うことにより変化や訴え等の把握に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族の情報を得ることにより把握できている。家族と密に連携を取ることにより、新たな情報を少しずつ付け加え、ご利用者の全体像を知ることが出来ると考える。家族の情報により、ご利用者の生活歴把握に努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員間で情報交換や伝達を行う事により、ご利用者の生活リズムを把握できている。出来ないという情報にとらわれず、出来るか出来ないかは職員が実際に関わって、また日々の行動・生活リズム等観察することにより把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族のニーズと一人ひとりの状態を基に、本人がより良く暮らしていくためにどうしたら良いか検討し、その人らしい介護計画を意識して作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングシートを活用し3か月ごとに評価・見直しを実施している。状態変化時はその日の出勤職員で話し合ったり、会議で話し合い状態変化に応じたケアの変更に留まっている。		センター方式を導入し、モニタリングから評価までの一連の流れを確立して行きたい。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・ケアチェック表及び経過表に記録し、これらを通して内容を知ることが出来る。就業前に介護記録・申し送りノートに目を通すことで全職員に伝わるよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者・家族の要望に応じて、お寺詣り、自宅、隣の施設へ知人に会いに行ったり、施設への宿泊・宿泊時の食事の提供、家族が付き添いできない場合の病院受診などを支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の図書館利用、商店への買い物等を行い地域との関わりを図っている。		ご利用者と一緒に作った手作り作品を持って警察や消防を訪問し関係作りを目指したい。協力体制を築いていきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問美容サービスの利用、図書館で開催された催し物や温泉施設での入浴等へ一緒に行ったりしている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居されている方のマネジメントにおける解決できない問題があった場合は、相談しに行く。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の情報を聞き、医療機関への希望を取り入れた支援を行っている。話し合いを密に行い、納得されたうえでの受診支援を行っている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の専門医療機関の受診を行い、いつでも電話や手紙での状況報告により指示・助言をいただけるようになっている。また、協力医療機関とも連携を取り、適切な指示・助言をもらって対処している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関との連携を取り、適切な指示・助言をもらっている。また、協力医療機関とは隣接しているため常日頃接する機会が多く、状況の報告もできている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時ご利用者情報を作成し、状況・状態を伝え家族の意向等を説明している。また、随時面会に行き入院時のダメージや混乱が少なくなるよう努めている。本人・家族の意向に従って協力している。</p>	
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>本人・家族の希望に沿った支援や本人の状態に合わせた対応を行えるよう、本人・家族、医療機関と繰り返し話し合いをもっている。</p>	
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人の心身の状況報告とともに事業所の機能を理解してもらったうえで、重度化・終末期の支援については、家族や医療機関と連携を図りながら支援に取り組んでいる。</p>	
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>環境の変化によるご利用者のダメージの話をを行うと共に、ご利用者情報とグループホームでのケアプラン・本人の習慣・好みの重要さ・ケアの工夫等のご利用者情報提供に努めている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>竹里会の「心のかぎ」に職員行動規範として、プライバシーに関する項目をあげている。職員は常にこの事を念頭において言葉かけ、個人記録の取り扱いにも注意している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	行事などについても職員が計画するのではなく、季節の話題の中からご利用者に積極的にイベントに関わってもらっている。また、言葉でうまく表現できないご利用者は、表情や態度で意思を汲み取るよう努めている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に配慮しながら散歩や買い物に出掛けたりと、ご利用者一人ひとりが自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支援している。また、その日の気持ちや突発的な要望についても本人の気持ちを大切にしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一人ひとりの好まれる服装や髪型を大切に、お化粧品も身だしなみとして習慣となっている。また、外出時のおしゃれを楽しめるよう支援している。家族協力のもと行きつけの美容室に行けるよう努めている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食材の買出しから食事の準備・配膳・下膳・片付けまで、ご利用者の活躍の場を配慮した上で職員と楽しみながら行っている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物は数種類用意しておき、選んでもらっている。買い物に行き、自分自身食べたい物等購入できるよう支援している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご利用者の排泄のサインを把握し、個人に合わせた声かけに心がけている。失敗してしまった場合でも、自尊心を傷つけないような声かけで支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自分の好きな時に入っていたく。また、個別入浴で個人に合った温度や長さで入浴を楽しんでいただく。入浴を拒むご利用者に対しては、時間を置いて別の職員が声かけを行ってみたり工夫している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れないご利用者に対しては、日中の休憩時間と活動時間のバランスを考え支援を行っている。夜間ぐっすり休めるよう居室の環境面も整え、安眠を図るように努めている。また、必要であれば病院受診も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の場面で調理の下ごしらえ、後片付け、洗濯物たたみ等、それぞれに合った役割が確立している。また、外庭の草取り、野菜、花壇づくりも心身の安定につながっている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物する際に値段を見比べたり、隣の施設の喫茶に等に出掛けたりすることで、自らお金を使えるよう支援している。本人の希望と能力に応じ金銭管理をしていただき、精神の安定につながっているご利用者もいる。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩(ドライブ)や季節ごとの花園見物等一緒に楽しめるよう雰囲気作りを行っている。また、本人の希望に沿って自分の行きたい時に外出できるよう支援している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族に相談・協力を得て自宅への外出外泊や温泉施設等へ外出できるよう支援している。また、梨狩り、動物園、虫見物、外食等、個人の希望を取り入れての外出支援に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に相談・協力のうえ、電話の要求あるときは取り次ぎ、手紙・年賀状・暑中見舞い等のやり取りをしている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会できるようにしており、好まれる場所でご利用者とお茶を飲まれながらゆっくりと過ごされる雰囲気を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束その他の行動制限廃止マニュアルを作成し、職員はこれを把握し拘束のないケアに取り組んでいる。また、緊急やむを得ない場合には、本人・家族に説明を行い記録に残している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の出入りをキャッチしてチャイムが鳴るよう整備し、職員が必ず確認することで施錠をしていない。ご利用者・訪問客が自由に出入りできるようにしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	出勤したらご利用者に挨拶しながら所在確認行う。フロアに必ず職員1名配置するよう職員間の声かけを徹底している。夜間はプライバシーに配慮しながら、巡回を行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	担当者を決め管理・保管を行っているが、ご利用者の能力に応じて管理している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>事故が起こった場合は、事故報告書を作成し職員再発防止に努めている。また、年2回の防災訓練を行い、職員に誘導方法を等を指導している。</p>		
72	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>マニュアル作成や年1回の救急法を受講している。ミーティングで応急処置や医療面についての勉強会を取り入れている。</p>		
73	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>非常時連絡表の作成を行い職員に周知している。年2回防災訓練を行い、避難経路・避難場所を確保している。また、運営推進会議で地域の協力を得ている。非常用備品や非常用食料、飲み水も準備している。</p>		
74	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>ケアプランにリスク面の項目があるご利用者については、本人・家族と十分話し合い抑圧感のない暮らしができるよう支援している。また、面会時に随時近況報告を行っており、その都度リスクについても説明し理解を得ている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>バイタルサインは毎日測定を行い、体調の変化の早期発見に努めている。必要な情報は職員間で共有し、体調の変化があった際は受診を行うよう支援している。</p>		
76	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>医師の指示に従い服薬を支援しており、症状の変化も確認している。薬の内容は個人ファイルに記載し、把握に努めている。また、変更あった場合は日誌や申し送りノートに記載し周知徹底している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	献立の工夫・水分摂取の場を増やすこと、散歩や適度な運動の実施により、できるだけ自然排便につながるよう支援している。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行っている。拒否される方は、時間を置いたり職員が義歯を洗浄したり、うがいだけでも行っていただくようにしている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事・水分摂取量を記録して栄養面の把握に努めている。水分摂取量が少ないご利用者には、好まれる飲み物をこまめに提供するなどの工夫を行っている。医療機関や管理栄養士から助言をもらっており、年2回カロリー計算を行っている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いうがいは積極的に行っている。ふきんやおしぼり等は、強酸性水で消毒を行い予防に努めている。感染予防マニュアルを作成し、実行することによって予防に努めている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の中を確認しながら、買い物に行き食材が残らないようにしている。調理用具は、毎回洗浄し強酸性水での消毒や日光消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に花壇があり、花を植えている。また、ホームの周囲には小さな畑もあり、雰囲気作りに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはゆっくりくつろげるようコタツを置き、テーブルも家庭で使われているような物を使用。ホーム内には、手芸の飾りで季節感を出している。		生活感や季節感をもっと感じていただくように玄関先に季節の花を飾ったり、季節ごとにご利用者の方と作った共同作品を展示したりして楽しみのもてる空間作りをしていきたい。
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分にソファや畳のスペースを配慮。また、コーナーには畳ベンチを置く等居場所の選択を増やしている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居されてからも戸惑いがないよう、家族へ相談し持参される物は、なじみの物を自宅居室での配置場所になるべく近付けるよう心がけている。本人が快適な空間となるよう配慮している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気はまめに行い、空気がこもらないようにしている。冷暖房はご利用者の意見を取り入れ、効きすぎないように気をつけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部分における廊下、浴室、トイレの手すり、浴室の滑り止め、各居室トイレの手すり、畳スペース等の高さなど個人の状況に応じた生活支援が送れるようにしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室の表札やトイレの目印、居室にのれんをかける等して、混乱を防ぐ努力をしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑や花壇にはご利用者と一緒に水やりや手入れを行っている。中庭や外のベンチを使って天気が良い日に日光浴などして、自然を感じられるよう支援している。		中庭の活用法についてもくつろぎの空間になるよう、また今以上快適に過ごせるように検討して行きたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

あぜ道では理念にあるように、場面場面でのご利用者一人ひとりの思いや気持ちを大事に大切にしていきたいと思っています。ご利用者の「どこか行きたいね」という要望に応えられるように、また地域に積極的に出ていけるよう外出支援に力を入れています。人との関わりや自然との触れ合い、外出によって得られるたくさんの刺激を体で感じて欲しいと考えています。また、共有スペースを活用してのデイサービスも1年たち、ご利用者の方たちはお互いの良好な関係作りができ、ご利用者間刺激あって活気が出てきたように思えます。ご利用者に振り回される楽しさや大変さのすべてを通して、その人らしい笑顔に少しでも出会えたらと思っています。